

原爆投下から81年

広島市長が平和宣言で

力強いメッセージを訴える！



8月6日、広島に原爆が投下されて81年が経過しました。本で行われた平和祈念式典で、平和宣言を読み上げた広島市の松井市長は「世界中の為政者」「日本政府」「若い世代」へ、力強いメッセージを述べました。

- ◆世界中で不信の連鎖が進み、欲望がむき出しになっていた第2次世界大戦の時代に回帰してしまう。核兵器の非人道性を軽視し、自国の繁栄のための武力行使を認めることは、暴力を伴う報復の連鎖を許容し、第三のヒロシマ・ナガサキをつくり出すことになりかねない。
- ◆一人ひとりがあらゆる暴力を否定し、核兵器廃絶という理想を理想で終わらせない国際社会をつくり上げるための行動を起こす必要がある。
- ◆日本政府には、日本国憲法が掲げる崇高な理想を深く自覚し、国民に犠牲を強いることのないよう、したたかで粘り強い外交に徹する中で、国際社会の平和と安定に向けて貢献し続けることを表明し、実行していただきたい。11月から開催される核兵器禁止条約の再検討会議にオブザーバー参加し、そして、一刻も早く締約国となっていきたい。
- ◆若い世代の皆さんは、価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めて欲しい。うれしさや楽しさ、夢や希望を共有できる。世界の多くの若者が、広島をはじめさまざまな場で被爆の実相を学び、交流を深めている。平和のために日常生活の中でできることを実践し、自らの思いを発信することで、その行動の輪を広げて欲しい。

「平和な世界」を次代へつなぐために、
今を生きる私たち1人ひとりが考え、行動しよう！